

文化共生の意味探る

外国ルーツの高校生とセミナー

西 区

国際理解や多文化共「スキルアップセミナー」について高校生が学「ナー」がこのほど、浜



多様な背景を持つ人との相互理解について意見を交わす
大学生と高校生＝浜松市西区の庄内協働センター

松市西区の庄内協働センターで開かれた。外国にルーツを持つ静岡文化芸術大の学生でつくる団体「カリーズ」のメンバーが複雑な背景を持った人々の存在を伝え、多文化共生の意味を語り合った。

同協働センターの次世代リーダー養成講座の一環。本年度は外国人と接する機会の少ない庄内地域で国際化社会に備えた人材育成をテーマに、来年2月までの計7回、グループワークや座学を展開している。

4人の提示したテーマで意見交換した。同大3年の玉城純子さん(愛知県岡崎市)は、日本生まれで感覚は日本人。日本語しか話せないが、ブラジル国籍である状況を説明し、「18歳までブラジル人であると言えなかった」などと胸のうちに明かして「国籍とは何か」を高校生に問い掛けた。一重国籍問題なども話し合った。高校生は「国籍について考えたことがなかった」「いろいろな人がいることを知った」と多様性に理解を示した。

高校生は次回以降、フェアトレードについて学び、来年2月10日の協働センターまつりで成果を発表する。(浜松総局・青島英治)